

経口抗がん薬の一部を対象とした 安全対策シートの運用について

2019 年 8 月

島根県立中央病院 薬剤局

1. 目的

院外処方の推進に伴い、経口抗がん薬（分子標的薬を含む）も院外処方される機会が増えていますが、次の受診までの期間に副作用を生じて内服を自己中断されたり、副作用が重篤化し休薬を余儀なくされることも散見されます。

かかりつけの保険薬局薬剤師の先生方に服薬状況や副作用のチェックに積極的に介入してもらうことで、経口抗がん薬治療の有効性や安全性の維持向上につなげることを目的として、一部の経口抗がん薬について、現在運用しているトレーシングレポートの拡張版として、安全対策シートを用いた運用を開始します。

2. 対象薬剤

副作用プロファイルが共通している以下の経口抗がん薬を処方されている患者を対象とします。

- レゴラフェニブ（商品名：スチバーガ、適応：結腸・直腸癌、消化管間質腫瘍、肝細胞癌）
- ソラフェニブ（商品名：ネクサバル、適応：腎細胞癌、肝細胞癌、甲状腺癌）
- レンバチニブ（商品名：レンビマ、適応：肝細胞癌、甲状腺癌）

3. 運用

- 1) 保険薬局の薬剤師より、来局された該当薬剤を服用中の患者（または家族等）に対して、安全対策シート（以下、シート：別紙参照）に沿った電話での服薬状況・副作用チェックが行えること、結果は当院へフィードバックすることについて紹介いただき、電話連絡を行うことについて了解を得ていただく。
- 2) 保険薬局の薬剤師は、1)で了解が得られた場合、連絡先を確認し、来局後 1 週間後を目途に連絡予定日時を決定していただく。なお、連絡は毎回必須ではなく、次の当該診療科の受診日までの間隔が 2 週間以上ある場合を目安として

ください。

- 3) 保険薬局の薬剤師は、事前にシートを当院 HP よりダウンロードしていただき、連絡予定日時に患者へ電話連絡してシートの内容を聞き取り確認し、結果を当院薬剤局へ FAX (①処方箋／トレーシングレポート、②シート をセットで) していただく。

(※ 緊急性が高いと判断した場合、FAX 送信とともに処方医へ直接電話連絡を行ってください)

- 4) 当院薬剤局 DI 室の薬剤師は、FAX 内容を確認のうえ、FAX が届いている旨をカルテ歴および患者伝言板(カルテを開く際に自動で立ち上がるメッセージ機能を有するツール)に記載した後、カルテ取り込みに回します。

(※ 処方医への連絡はされていないが緊急性が高いと判断した場合、薬剤局 DI 室の薬剤師より保険薬局の薬剤師へ連絡して状況を確認する場合があります)

- 5) 処方医は、次回診察時に FAX の内容を確認し、治療に反映させます。

(※ 薬剤師より緊急性が高い旨の電話連絡があった場合は、内容に応じて患者へ直接連絡を取る等の対応を行います)

- 6) 以後、継続処方される場合は、2)-6)の流れに沿って対応をお願いします。

4. 運用開始日

2019 年 9 月 1 日 (日)

5. 本運用に関する問い合わせ先 (平日)

島根県立中央病院 薬剤局 DI 室

・電話：0853-22-5111 (内線 6631)

・Email：pharm2di@spch.izumo.shimane.jp (急がない場合のみ)

6. 備考

- ・対象薬剤を販売している製薬メーカーに対しては、該当薬剤を新たに納入する保険薬局に対して安全対策シートの趣旨を説明し、シートのダウンロード先(当院 HP の薬剤局の保険薬局向けのページに掲載予定)を紹介してもらうよう依頼しております。